

福岡市保健医療施設指定管理者選定・評価委員会 議事録

日 時	令和6年1月19日（金）15時30分～17時30分	
会 場	アクロス福岡 602会議室	
出席者	委 員	神坂委員、楠原委員、齊藤委員、中原委員、森田委員
	事務局	健康医療部長、地域医療課長、地域医療係長、係員2名

< 議事録 >

1 開会

2 委員及び事務局紹介

3 会議の取扱い

要綱に基づき、第3条第1項第5号及び第2項第2号については公開、第3条第1項第6号については非公開とした。

4 委員長選出

5 議題

(1) 評価の対象及び実施方法について

《事務局より説明》

(質疑なし)

(2) 福岡市立島しょ診療所（玄界診療所）の評価について

《事務局及び指定管理者より説明》

○委員

小児科の患者数が令和3年度の7人から令和4年度に22人と増えているが、この間、何か状況の変化等があったのか。

○指定管理者

診療所の体制については大きく変わっていない。小児科については専門医がいないため、患者数が増加した際も、内科の先生にしっかり対応して頂いた。

○委員

動線の変更について対応したとあるが、施設の改修などをしたのか。また、患者待ち時間短縮については、具体的に何を行ったのか。

○指定管理者

施設の構造を大きく変えたわけではないが、コロナ流行期における対応として、発熱患者はインターホンで裏手から入って頂く、専用の待合室を設置するなど、一般の患者と動線が交わらないように対応した。また、受診前の事前予約を広報し、予約を受けることで、効率的に診療できるように対応した。

○委員

玄界島では、高齢化率も上がっていると思うが、令和4年度の施設整備は、バリアフリー対応の視点も含めての取り組みか。

○事務局

令和4年度に、具体的にバリアフリーの観点から実施した修繕等はないが、同観点から必要な修繕等については、随時、検討している。

○委員

評価項目に「小規模な修繕」との項目はあるが、小規模でない修繕はどうするのか。

○事務局

規模の大きい修繕等は市が実施し、金額が一定額以下の軽微なもの等は、指定管理者が主体となって実施している。

○委員

新型コロナウイルス感染症の流行時における患者数、対応歴などについては、しっかりと記録した方がいいと考えるため、意見としてお伝えする。

○指定管理者

新興感染症の流行のリスクは今後も続いていくため、コロナ流行時の対応等をしっかりと教訓としていきたい。

○委員

指定管理者として「設備・付帯設備」の評価が低い理由は何か。

○指定管理者

施設全体では老朽化が進んでいる部分は多く、理想に対しての修繕実績という意味での評価である。実際は予算が限られることから、緊急性の高いもの等、優先順位をつけて対応している。

○委員

令和4年度の決算において、人件費や医薬材料費は、予算に比較して少なめに収まっているが、予算を多く計上していたのか、それとも実績が想定以上に低かったのか。

○指定管理者

人件費は、コロナ対応の観点から、特に十分に対応できる額を措置していた。一方、医薬材料費は、結果的に想定よりも実績が少なく収まった印象である。

○委員

診療所の診療報酬は医師会の収入として計上されるのか。

○事務局

診療所の収入については、条例で使用料として定められており、収入については直接、市の収入に計上される。

○委員

バリアフリーについては、現状で必要な部分に対応できているということか。

○指定管理者

概ね対応できていると認識している。ただし、できれば修繕した方が望ましいと考えられる箇所でも、施設の構造上、対応が難しい部分などもあり(例:扉の開閉方式など)、完璧とまでは言えない。対応可能な部分は、可能な限り、随時、検討している。

《評価の実施》

【非公開】

(3) 福岡市立島しょ診療所(能古診療所)の評価について

《事務局及び指定管理者より説明》

○委員

耐震補強については今後、より重要になってくると考える。能古診療所を建設したのはいつか。

○事務局

平成11年である。小規模の建物については、法定点検の対象外となることもあるが、留意したい。

○委員

医科の「その他」の患者数について、令和2年度の285人から令和3、4年度の患者数が減っているのはなぜか。

○指定管理者

「その他」は保険診療の受診者ではなく、健康診断の受診者などを計上している。コロナ禍で少なくなったものと考えられる。

○指定管理者

島外の方が渡島を控えたことなどもあったと思われる。

○委員

空調機器の更新とあるが、工事の際は相見積もりを行っているのか。

○事務局

市の基準に準じて、10万円を超える見込みの場合は相見積もりとしている。

○委員

「動線の確保」の項目については、自己評価が4となっており、待ち時間の短縮と記載されているが、どのような対応を行ったのか。

○指定管理者

島民による事前予約や、車での来院が浸透したことが大きい。看護師の数は変わらず2名体制であり、かなり多忙な時期もあったが、長期間、その状態が継続したわけではなかったため、なんとか2人で対応した。

○委員

バリアフリー対応に関する状況はどうか。

○指定管理者

スロープの設置など概ね、対応できている。場所によっては段差があったり、手すりをつけたい部分があるなど、改善の余地はあるため、適宜、市と協議しながら対応している。

《評価の実施》

【非公開】

(4) 福岡市立急患診療所の評価について

《事務局及び指定管理者より説明》

○委員

年々患者数が増えている背景は何か。

○指定管理者

令和2年度と3年度はコロナ初期ということもあり、受診控えが原因と考えられる。

○委員

令和4年度の患者数は、コロナ前の患者数に戻ったということか。

○指定管理者

コロナ前の患者数はもう少し多い。

○委員

キャッシュレス決済導入で利便性が高まったと思う。導入経費はどのように捻出したのか。

○事務局

導入経費は市が直接負担している。

○委員

修繕内容に記載がある「FCU」とは何か。

○指定管理者

空調機器である。

○委員

資料4-①の「人員配置」の特記事項に必要な増員を行ったと記載があるが、看護師については増員したのか。

○指定管理者

トリアージ要員の看護師を増員した。

○委員

コロナ5類移行後は増員していないのか。

○指定管理者

現在も1名増員している。

○委員

増員している看護師は、新たに募集したのか。

○指定管理者

トリアージを開始した当初は、トリアージ要員として募集をしたが、数が集まらず、既存のスタッフで対応している。以前は2名増員していたが、現在は方法を工夫して、基本1名増員とし、必要に応じて更なる増員を行っている。

○委員

トリアージ要員の看護師は感染症にある程度強みを持っている方か。

○指定管理者

通常の看護師である。

○委員

トリアージ要員を増員したことで、運営は良くなったか。

○指定管理者

良くなった。

○委員

コロナ流行期には、人の増員に限らず、コロナ患者対応のためのプレハブを設置したことや、館内の動線を有熱非熱に分けるなど、限られた資源の中で、柔軟な対応をしていただき、非常に助かった。

福岡市における時間外の一次救急の仕組みは非常に素晴らしい。令和6年4月から始まる医師の働き方改革によって非常に大変な状況になるかと思うが、現在の体制が維持できるように解決策を探してほしい。

○委員

資料4-①の「設備・付帯設備」の項目について、具体的にどのような修繕をしたのか。

○事務局

資料4-②に記載のとおり。緊急性の高い箇所を中心に実施してもらっている。

○委員

従事者研修は具体的にどのようなことを行ったのか。

○指定管理者

受付事務や看護師など、従業員数は100名を超えており、一堂に会して研修を実施することが難しいため、オンラインでの研修という形で、厚生労働省や学会が配信している研修動画のQRコードを周知し、受講してもらった。

○委員

従業員でコロナに感染した方はどれくらいいたのか。

○指定管理者

看護師では、令和2年度から4年度の3年間で約30名が感染した。

○委員

看護師は全部で何名いるのか。

○指定管理者

80名程度いる。クラスターで同時期に感染したわけではなく、3年間の合計で30名が感染した。

○委員

参考資料4-③の決算書について、人件費のその他とは何か。

○事務局

当初、想定していなかった従事者の増員分や、コロナ感染に対応した従事者に支払う特別手当が含まれている。

《評価の実施》

【非公開】